

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：24506

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24659959

研究課題名(和文) 臨床看護ケアの質向上をめざし臨床と大学が協働する看護研究支援システムの開発

研究課題名(英文) Development of nursing research support system in order to improvement the quality of clinical nursing care

研究代表者

内布 敦子 (UCHINUNO, Atsuko)

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：20232861

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：平成24年度は、臨床看護師を対象に看護研究に伴う困難な状況を質的研究によって明らかにした。困難は研究過程を踏むことと研究環境が整っていないことの2つに分類された。また、臨床看護師が発表した演題調査では、大学との協働は30%余りであった。

平成25年度は平成24年度の研究結果をふまえ、臨床看護研究支援のため4回のセミナーを企画し、看護師21名が参加した。テーマ別7つの班を構成し、班毎にResearch Questionの精練からプレゼンテーションまでサポートを行った。参加者アンケートでは、よく理解できたという評価が76%、希望に沿った内容であったという評価が76%、役立つという評価が95%だった。

研究成果の概要(英文)：2012: Qualitative study was conducted to identify nurse's difficulties when they perform clinical nursing research. The difficulties were categorized to difficulties on the every research process and poorness of research environment. Furthermore, inquiring main academic conference of nursing in Japan, it was clarified that the ration of nursing research with a professional researchers was 30% in the nursing researches conducted by clinical nurses.

2013: Based on the result of our research in 2012, we provided the series of lecture which covered each process of the nursing research. 21 nurses had participated in this seminar. Seven groups of nurses achieved their research procedure with strong support by university faculties. Participant was asked to evaluate this program. The response to the questioner was; "easy to understand" 76%, "match to your expectation" 76%, "useful for your research" 95%.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：基礎看護学

キーワード：看護研究 臨床看護師 研究支援 研究シーズ 支援システム

1. 研究開始当初の背景

背景として次の2点が挙げられる。

(1) 臨床現場の看護の質を改善するには、病院内部の努力だけでは限界があり、客観的に質を評価分析して、改善を支援する第三者による専門コンサルタントが有効であることが分かっている(科研課題番号 18390590: 代表者 内布敦子)。申請者らは外部コンサルタントの導入について検討し、コンサルテーションモデルを開発した(上記科研)。Evidence-Based Practiceを導入して質を改善するには、臨床看護師のケアの質改善に関する意識や努力だけではなく、外部からの支援、特に大学看護専門家の支援が有効であり、申請者らは支援実績を蓄積している。

(2) 臨床では看護研究に関する十分な支援・教育体制が整っていない(中平、2003)。申請者らの全国調査によれば100床以上の病院の90%弱が看護研究に取り組んでいたが(坂下ほか、2011)、看護実践のエビデンスとなる知識の発展につながっていないことが指摘されている(近田、1991; 数間ほか、1993)。これは臨床施設だけで解決できる問題ではなく、大学の支援が強く求められている(宮芝ほか、2010)。これまでも臨床からの依頼を受け大学が支援することはあったが、臨床側が「研究」に取り組む目的と大学側が考えている「研究」は必ずしも一致しておらず(坂下ほか、2011)、十分な効果を与えていないのが現状であった。

2. 研究の目的

看護の質を向上するためには、Evidence-Based Practiceの推進と同時に臨床でのEvidenceを生む研究が不可欠である。その実現には臨床と大学が有機的に連携し研究を進めていくことが必要である。現在、中・大規模病院のほとんどでは臨床看護職によって看護研究が実施されているが、いまだ十分な効果を上げていない。そこで本研究は、a.

臨床側と大学側が協働する臨床看護研究支援メニューの作成、b. 看護臨床研究支援メニューを組み合わせた支援システムの構築、c. システムの試行による精錬を通じ、看護ケアの質向上のために、臨床と大学が連携した看護研究支援システムを構築することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 臨床看護研究における課題の明確化

① 臨床での看護研究遂行上の困難調査

フォーカスグループインタビューにより看護研究遂行上の困難についてデータ収集を行い、質的内容分析の手法を用いて困難を構造化した。対象は兵庫県内の中規模病院で看護研究経験を持つ看護師およびその支援に携わっている看護師とした。

② 臨床看護師による発表演題の分析

国内の看護系学会の中から一定規模以上の学会を選択し、2012年度企画の学術集会における発表演題をテキストマイニング(情報工学研究者のオリジナルシステム)によって傾向を分析した。

(2) 看護臨床研究支援システムの検討

フォーカスグループインタビューによる調査結果を参考に看護研究の専門家の協議によって、支援メニューを考案し支援のシステム案を作成した。

(3) 看護臨床研究支援システムの試行、評価、精錬

支援メニューを構成して連続するセミナーを企画し、参加者を募集した。4回のセミナーと1回のディスカッションを9カ月にわたり実施し、受講後のアンケートを行い、その結果を分析した。

4. 研究成果

(1) 平成24年度の成果

① 臨床看護師による学会発表演題傾向分析

看護系学会の中から会員が1,000人以上の比較的大規模な20学会を取り上げ、平成24

年度に企画された学会での4,289件の発表演題を分析した。臨床看護師が筆頭研究者である研究は、全体の45.4%であった。演題の内容をテキストマイニングによって分析したところ、「患者」「看護師」という2語の頻出度が高いことが確認された。「患者」の共起語としては「受ける」「家族」「検討」が、「看護師」の共起語としては「要因」「新人」「影響」が上位に挙げられた。共起語のデータから臨床看護師による研究は臨床上の患者の健康問題やキャリア開発を課題にしているものが多いことが推測された。一方大学研究者が発表グループに入っている場合の共起語は「評価」「効果」「妥当性」などが上位に見られ、実証研究に取り組んでいることが推測された。

②看護師の臨床看護研究遂行上の困難

3つの中規模病院において、臨床看護研究の経験がある看護師3グループ、および研究指導の役割を担っている看護師3グループ（合計6グループ、26名）に対して、臨床看護研究を遂行する上でどのような困難があるか、フォーカスグループインタビューを行った。その結果、研究法をはじめとする訓練がないまま、看護師が研究課題に取り組んでいるという実態が明らかとなった。「研究テーマの設定」という初めのステップから困難を抱えており、「研究計画の立て方がわからない」等、研究の全過程において11のカテゴリーが抽出された（表1）。さらにこれらの困難を取りまく状況として時間不足や文献へのアクセスが難しいことなどが挙げられ、研究の困難をより強めているという構造が明確となった。

さらに臨床で看護研究活動を行う際の看護師に生じる感情や認識を別途分析した結果、表2に示すような8つのカテゴリーを見出すことができた。プレッシャーや精神的負担は研究指導を経験した看護師にのみ見られた。

表1. 看護研究における臨床看護師が抱える困難

困難	研究プロセスにおける	研究テーマの設定が難しい
		文献検索・文献検討の方法が不十分
		看護研究のプロセスが分からない
		研究計画書の立案が難しい
		研究結果のまとめ方が難しい
困難	研究の実施環境における	研究するための設備の不足
		研究時間の不足
		研究資金の不足
		人員の不足
		研究支援体制の不足
		研究に要する能力・知識の不足

表2. 臨床で看護研究活動を行う際の看護に生じる感情や認識

研究経験者と指導者両方	臨床看護研究は義務付けられている
	臨床看護研究はやりたくない
	臨床看護研究はできそうにない
	臨床看護研究によって成長する
	研究成果を実践に活用できた
	臨床看護研究を実施する能力や知識がない
指導者	研究指導に対するプレッシャー
	研究指導による精神的負担

多くはネガティブな体験であったが、同時に看護師達は研究活動の意義を感じていた。知識や能力の不足に対しては支援体制を整える必要がある。

(2) 平成25年度の成果

①臨床研究支援セミナーの開催と効果評価

平成25年度は、平成24年度の研究結果をふまえ、臨床看護研究支援のためのセミナーを企画し、実施および評価を行うことで、臨床看護支援システムの精錬、支援センターの運用に向けた土台作りをおこなった。

4回の研究支援セミナーを開催し、公募によって臨床看護師21名の受講生がセミナーに参加した。各セミナーは看護研究を行う上で基本的なテーマによって構成し、毎回講義

の後、各研究班に別れて担当教員の個別支援を受ける形式を取った。テーマ別に7つの班(表3)を構成し、班毎に Research Question の精錬、文献検討、研究方法の選択、研究計画書の作成、倫理委員会申請書類の作成、分析支援、研究結果のまとめ支援、研究結果の記述、抄録の作成、プレゼンテーションのサポートを行った。定例のセミナー以外に数回のセッションおよびメールでの支援を各班が適宜提供した。セミナー最終日には、それぞれの成果を発表することができた。

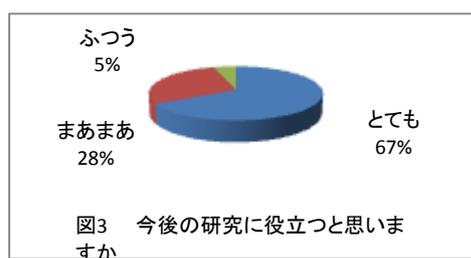
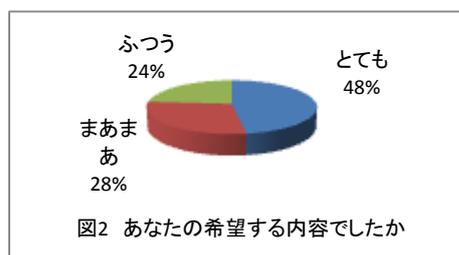
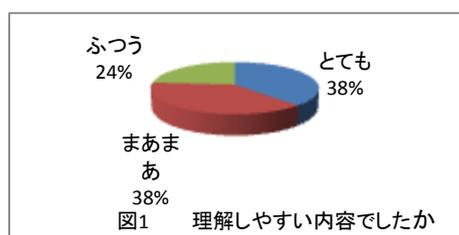
表3. 7つの班の研究テーマ

A 病院外科病棟における交差感染予防にむけた手指と包交車の汚染度調査
小児脳外科腹臥位手術における馬蹄形頭部支持器使用時の発赤および褥瘡発生率と要因調査
全身麻酔の脊椎手術患者におけるプレウォーミングの低体温予防効果の検証
心臓カテーテル検査中の上肢固定方法と手台の改良
集中治療室における抑制の過剰実施の関連因子について
夫婦間腎移植ドナーの入院中の看護ニーズについて
希死念慮を確認することに対する看護師の院生感情の実態

また参加者へのアンケートによると、全員が今後の研究活動に役に立つと回答していた。セミナー全体の評価をみると、理解のしやすさについて、「とても」、「まあまあ」と回答した者が合わせて76%であった(図1)。希望する内容であったかという質問に、「とても」、「まあまあ」と回答した者が76%であった(図2)。また今後の研究に役立つかという質問に「とても」、「まあまあ」と回答した者は95%であった(図3)。

一方では、セミナーの回が進み、データ分析や報告書の作成の段階になると、受講生は

セミナーで提供される知識の理解や実施が難しいと感じていることが分かった。データ分析(第3回目)のセミナーでは、理解のしやすさは「とても」と「まあまあ」を合わせても40%であった。最後に行ったインタビューでは、自身の研究能力に疑問を感じていることが語られ、文献検討以下すべてのプロセスにおいて、大学等の研究者に研究活動を具体的にサポートしてもらう必要であると述べており、研究のすべての段階でサポートが必要であり、それなしには一定レベルでの学会発表は困難であることが推測された。



②臨床看護研究支援センター機能の構造化

昨年度に引き続き、Web上で簡単にセミナーに関連した情報にアクセスできるようなシステムを構築した。本年度はさらに内容を充実させ、これまで開催したセミナーの概要や資料、支援する大学教員の紹介等の情報を掲載した。

今後は、webサイトに双方向性の機能をも

たせ、サイト上でセミナー等の参加申し込みを行ったり、様々な研究支援に関する情報を発信し、臨床看護の研究支援を充実させることによって看護の質の向上にむけた臨床と大学の有機的な連携を進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 13 件)

- ①中野宏恵、内布敦子、坂下玲子、森本美智子、岡田彩子、川崎優子、谷田恵子、東知宏、池原弘展、井上知美、森舞子、山村文子、太尾元美、臨床現場における看護研究の実施に伴う看護師の体験、兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要、21 巻、2014、11-21、査読有
- ②井上知美、中野宏恵、内布敦子、坂下玲子、森本美智子、岡田彩子、川崎優子、谷田恵子、東知宏、池原弘展、森舞子、山村文子、太尾元美、看護研究における臨床看護師が抱える困難、兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要、21 巻、2014、23-35、査読有
- ③山村文子、森舞子、太尾元美、新居学、井上知美、内布敦子、坂下玲子、臨床看護師による学会発表演題名の傾向分析-テキストマイニングの手法を用いて、兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要、21 巻、2014、75-86、査読有
- ④ Atsuko Uchinuno, Research Trends of Oncology Nursing in Japan and Around the World, Japanese Journal of Clinical Oncology, 42(10), 2012, 882-886
10.1093/jjco/hys139 査読有
- ⑤北島洋子、西平倫子、西谷美保、太尾元美、宮芝智子、坂下玲子、学会掲載論文から見た臨床看護職が行っている看護研究の現状と課題、兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要、19、2012、1-15、査読有
- ⑥坂下玲子、看護研究の基礎 意義ある研究のためのヒント (第 7 回) アンケート (質問票) の設計、看護研究、45 (1)、2012、88-96 査読なし

⑦坂下玲子、看護研究の基礎 意義ある研究のためのヒント (第 8 回) インタビューデータの収集、看護研究、45 (2)、2012、200-206、査読なし

⑧坂下玲子、看護研究の基礎 意義ある研究のためのヒント (第 9 回) 量的研究 分析の基礎 (前編)、看護研究、45 (3)、2012、286-296 査読なし

⑨坂下玲子、看護研究の基礎 意義ある研究のためのヒント (第 10 回) 量的研究 分析の基礎 (後編)、看護研究、45 (4)、2012、512-521 査読なし

⑩坂下玲子、看護研究の基礎 意義ある研究のためのヒント (第 12 回) 看護研究の基礎 意義ある研究のためのヒント (第 12 回) Mixed Methods、看護研究、45 (7)、2012、712-720 査読なし

⑪坂下玲子、研究モデルの提案、看護研究、45 (7)、2012、679-685、査読なし

⑫坂下玲子、内布敦子、片田範子、意義ある臨床看護研究のあり方、看護研究、45 (7)、2012、686-690、査読なし

⑬岡田彩子、米国における臨床看護研究の現状、看護研究、45 (7)、2012、649-658、査読なし

〔学会発表〕(計 1 件)

①山村文子、森舞子、太尾元美、臨床看護師による学会発表演題名の傾向分析-テキストマイニングの手法を用いて、第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013 年 12 月 06 日～2013 年 12 月 07 日、大阪国際会議場

〔その他〕

ホームページ等
兵庫県立大学臨床看護研究支援センター
<http://kango-kenkyu.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内布 敦子 (UCHINUNO, Atsuko)
兵庫県立大学看護学部・教授
研究者番号：20232861

(2) 研究分担者

坂下 玲子 (SAKASHITA, Reiko)
兵庫県立大学看護学部・教授
研究者番号：40221999

(3) 連携研究者

片田 範子 (KATADA, Noriko)
兵庫県立大学看護学部・教授
研究者番号：80152677

森本 美智子 (MORIMOTO, Michiko)
兵庫県立大学看護学部・教授
研究者番号：60342002

小西 美和子 (KONISHI, Miwako)
兵庫県立大学看護学部・教授
研究者番号：60295756

谷田 恵子 (TANIDA, Keiko)
兵庫県立大学看護学部・准教授
研究者番号：60405371

岡田 彩子 (OKADA, Ayako)
兵庫県立大学看護学部・准教授
研究者番号：10425449

川崎 優子 (KAWASAKI Yuko)
兵庫県立大学看護学部・准教授
研究者番号：30364045

東 知宏 (AZUMA, Tomohiro)
兵庫県立大学看護学部・助教
研究者番号：90582908

池原 弘展 (IKEHARA, Hironobu)
兵庫県立大学看護学部・助教
研究者番号：90549122

井上 知美 (INOUE, Tomomi)
兵庫県立大学看護学部・助教
研究者番号：00582941

中野 宏恵 (NAKANO, Hiroe)
兵庫県立大学看護学部・助教
研究者番号：00632457

永山 博美 (NAGAYAMA, Hiromi)
兵庫県立大学看護学部・助教
研究者番号：20524953

森 舞子 (MORI, Maiko)

兵庫県立大学看護学部・助手
研究者番号：00632473

山村 文子 (YAMAMURA, Fumiko)
兵庫県立大学看護学部・助手
研究者番号：30613195

太尾 元美 (TAO, Motomi)
兵庫県立大学看護学部・助手
研究者番号：40612031